

応援します！

+ H22年度

H19-21年度

家族責任を持つ女性研究者

エンカレッジモデルの成果



エンカレッジモデル

エンカレッジモデルは
4つの柱を軸に成り立っています。

① 推進体制整備

男女共同参画室設置

裁量労働制導入



④ 次世代研究者 育成支援

応募・採用時に家族責任
による中断を考慮



意識啓発・広報

② 育児・介護 サポート体制整備

家族責任のある職員が研究と家
庭の両立を可能にする



一時預り保育室の設置

研究用PC貸与・
研究補助員雇用支援



森林総合研究所

③ IT環境整備

出張の効率化・フレクス
な勤務や最新情報の共有・
連携を可能にする

Web会議システム導入



多地点接続装置



全国12カ所に端末設置

TV会議システム導入

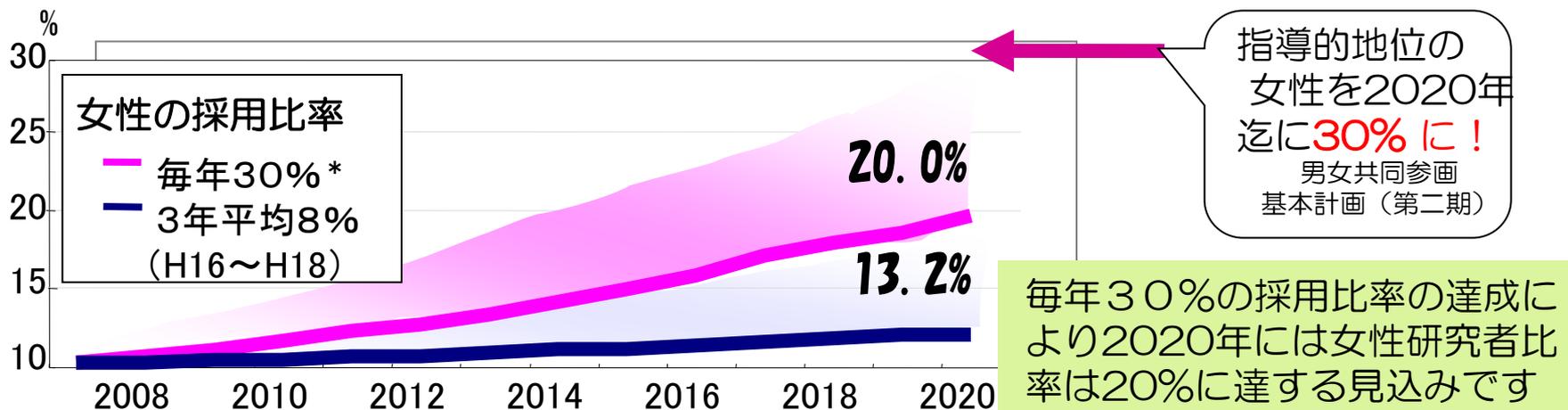


応援します家族責任を持つ女性研究者

ミッションステートメント

→ 全て達成しました!!

1. 裁量労働制の採用（研究職員）
2. 育児・介護のサポート体制整備（本支所等）
3. IT環境の整備（本一支所等間、研究所－自宅間）
4. 応募者・採用者の女性比率を**30%**に
（関連大学の女子学生比率と同等に）
5. 家族責任が原因となる中途退職者ゼロに



研究職員の女性比率の推移（想定）

*第三期科学技術基本計画（農学系採用目標）



①推進体制の整備

研究職員の裁量労働制導入が大きな制度改革でした。

両立支援に関わる各種制度

- ・ 休暇・勤務制度の改善
(育児短時間勤務H19年10月～、子の介護に関わる休暇 H21年1月～)
- ・ **裁量労働制の導入** (H21年7月～)
- ・ **両立支援ガイドブックの発行** (H21年11月～)
- ・ HPの開設とQ&Aによる周知 (H19年8月～)

成果

裁量労働制取得率
→女性80%
男性70%

<http://encr.ffpri.affrc.go.jp/>



②育児・介護のサポートシステム整備

研究支援制度を整備

- ・ 研究用PC, ソフトウェアの貸与、研究補助員の雇用 (H19年12月~)
- ・ 育児・介護休業中研究者への文献情報サービスの開始 (H20年2月~)

家族責任を持つ研究者にたいして所として明確な支援姿勢を打ち出しました。

利用者の声

★育休中でも研究との接点を持ち続けることができました。
(H21年度研究用PC利用者)

★インフルエンザの子供の看護中でも論文審査に対応できました。
(H21年度研究用PC利用者)

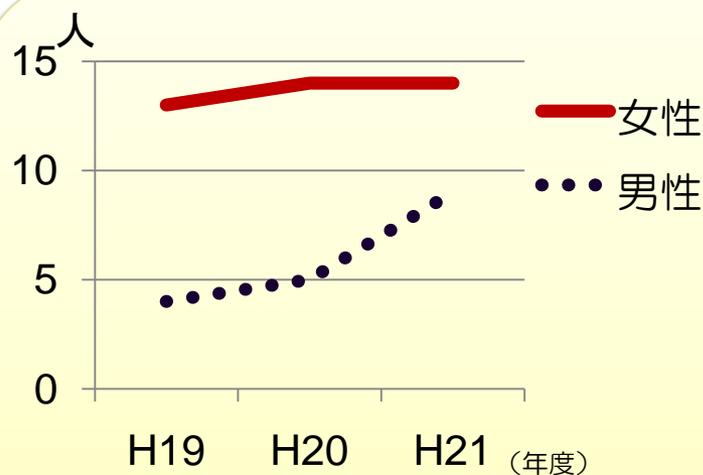
★所として応援する姿勢を示してくれたことが有難かったです。
(H21年度研究用PC、研究補助員利用者)

成果 (H19-21年度)

- 支援を受けた方のアクティビティ維持！
- ★3年間で45報の投稿論文(共著を含む)
- ★3年間で122件の学会発表

支援対象者…

- 育児休業取得者
- 未就学児、小学生低学年の子供の保育責任のある方
- 配偶者、両親等の介護責任のある方



研究支援利用者数

② 育児・介護のサポートシステム整備

2カ所に所内保育施設を新たに立ち上げました。

一時預かり保育室の開設 (本所つくば、関西支所) 民間保育施設の利用制度整備 (林木育種センター・各支所・各育種場)



本所
「どんぐりるーむ」
H21年3月～

旧テストハウスを
改修。



関西支所
「すぎのこ」
H21年4月～



全額自主経費で新設。す
ぎ国産材を利用

床板3cmの杉材は、さわ
りごごちが柔らかく、スギ
のよい香りで子どもたち
がぐっすりとお昼寝をする
と評判。

所内保育室のない支所や育種場な
どの組織では、民間保育施設を利用
できる制度を整備しました。

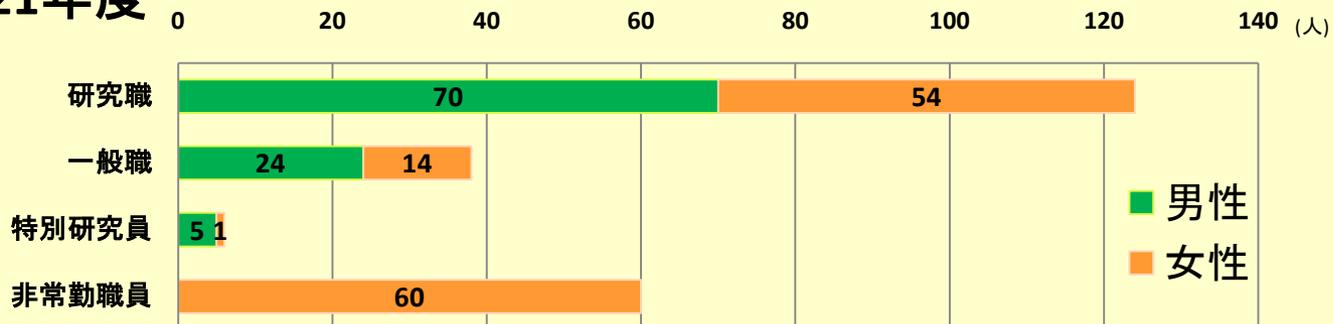


< 保育室利用実績1 >

職種別・男女別利用者数

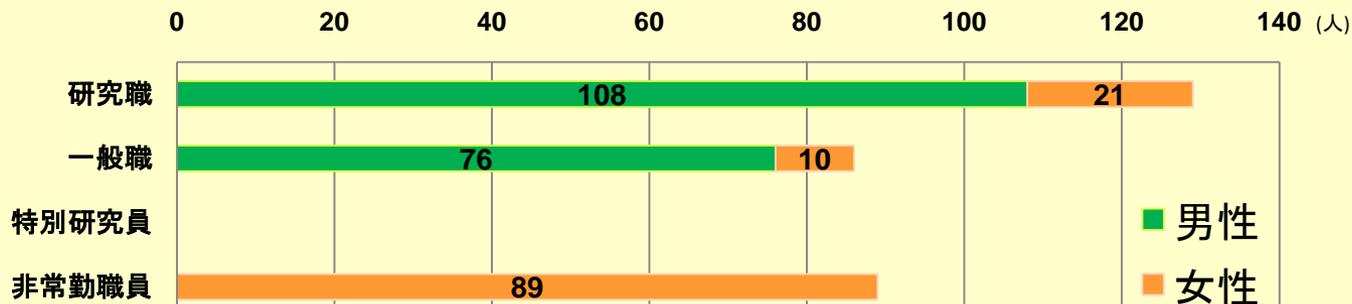
(どんぐりるーむ・すぎのこ・民間保育室合計)

H21年度



H22年度は利用人数が12月までの9ヶ月間で304名！
H21年度利用人数228名を超えています。

H22年度(12月まで)

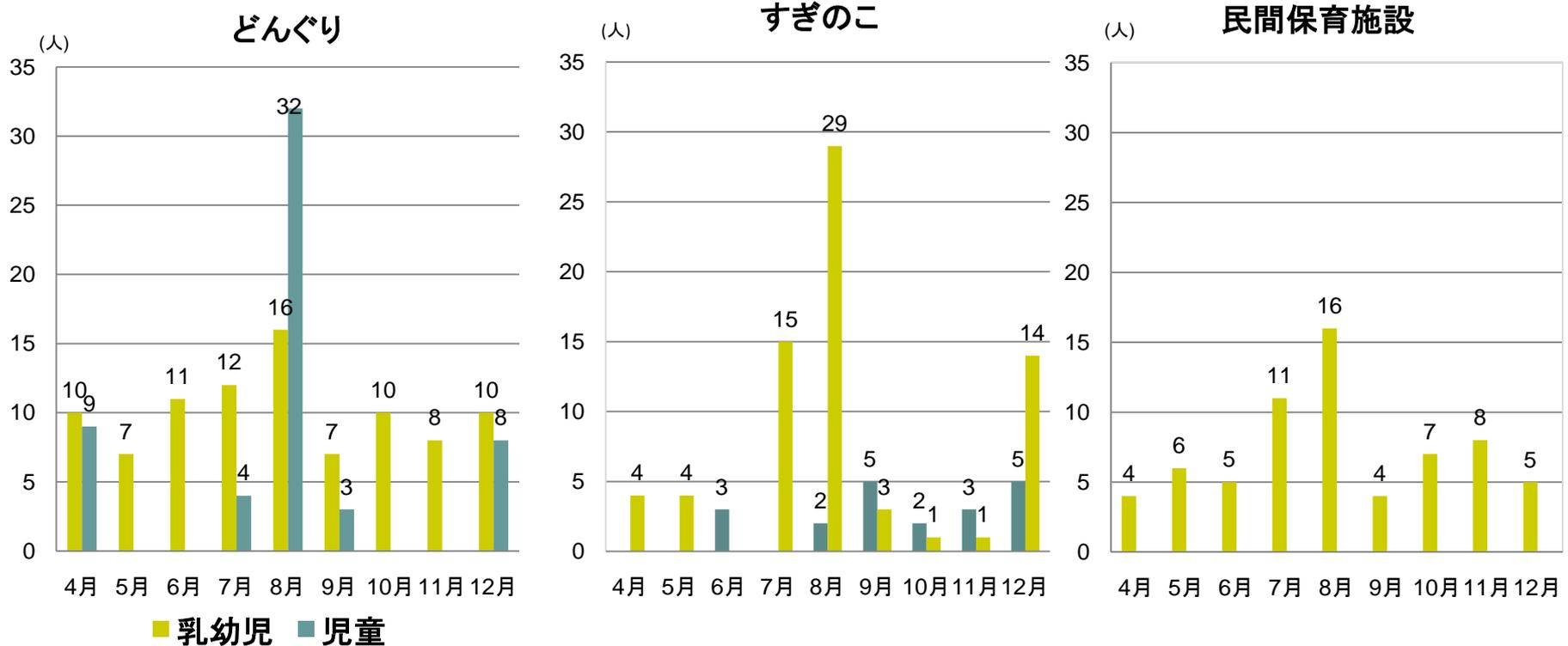


男性も多数利用しています。

< 保育室利用実績2 >

H22年 4~12月 月別利用こども数

夏休みに児童の利用が多いです。支所育種場での民間保育利用は、2組織での利用にとどまっています。



H22年 4~12月 月平均開設日数・利用こども数 (括弧内はH21年度)

月平均	どんぐり	すぎのこ	支所・育種場
開設日数(日)	9.9 (7.2)	6.4 (5.5)	6.6
利用子供数(人)	18.4 (11.1)	11.4 (10.6)	8.3

本所どんぐりるーむの利用者数は、昨年に比較して増えています。関西支所すぎのこは昨年度とほぼ同程度の利用者数です。

③IT環境の整備

出張の効率化をはかり、フレックスな勤務や、効率的に最新情報の共有、連携を可能にするため、各組織を結ぶテレビ会議システム・自宅と研究所を結ぶWebミーティングシステムを導入しました

・テレビ会議システム



▲本所と育種センターを結んだTV会議

・Webミーティングシステム



Webミーティングシステムを利用した業務報告会

成果

★ テレビ会議、Webミーティング合計152回開催

★ 女性の参加のべ255名

旅費の削減効果 女性で 460万円

全体で8600万円

(開催地以外の参加者の旅費より試算)

★ 出張回数 一人当たり1-2回減少(アンケートより)

利用者の声

育休中でも
研究打ち合わせに参加できて
情報共有ができました。
(Webミーティング利用者 女性)

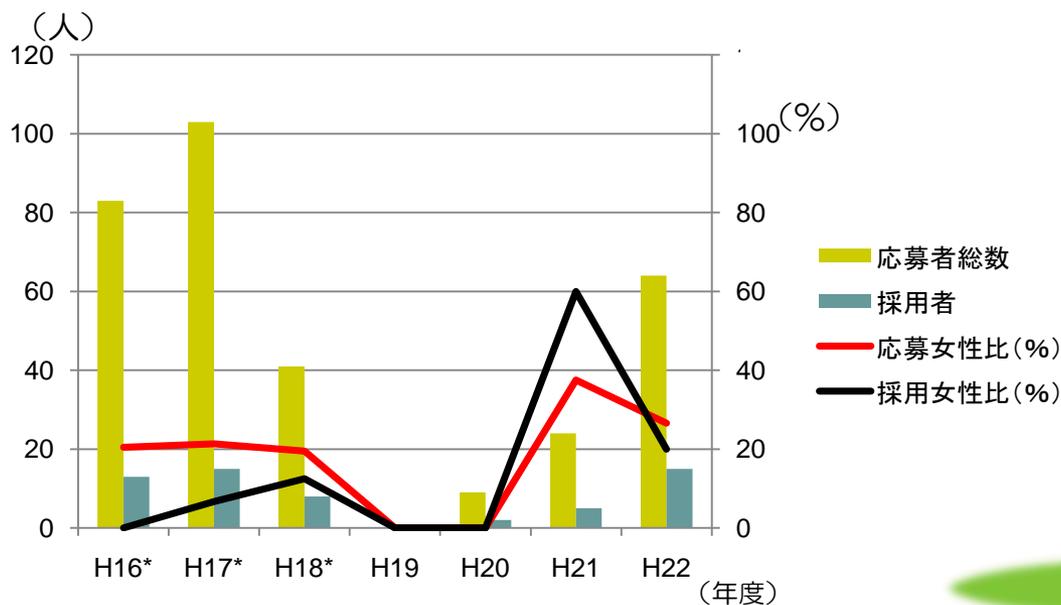
④次世代研究者育成支援

- ・採用時「家族責任による研究中断のある研究者」へ配慮
- ・応募要領に「男女共同参画の推進と次世代育成」の姿勢を明記
(H20年度年度公募～)

成果

H16-18年度と H19-H21年度(事業期間)を比較すると
★応募者の女性比: 20.5%→30.3%
★採用者の女性比: 5.6%→42.9%!

新規採用者数

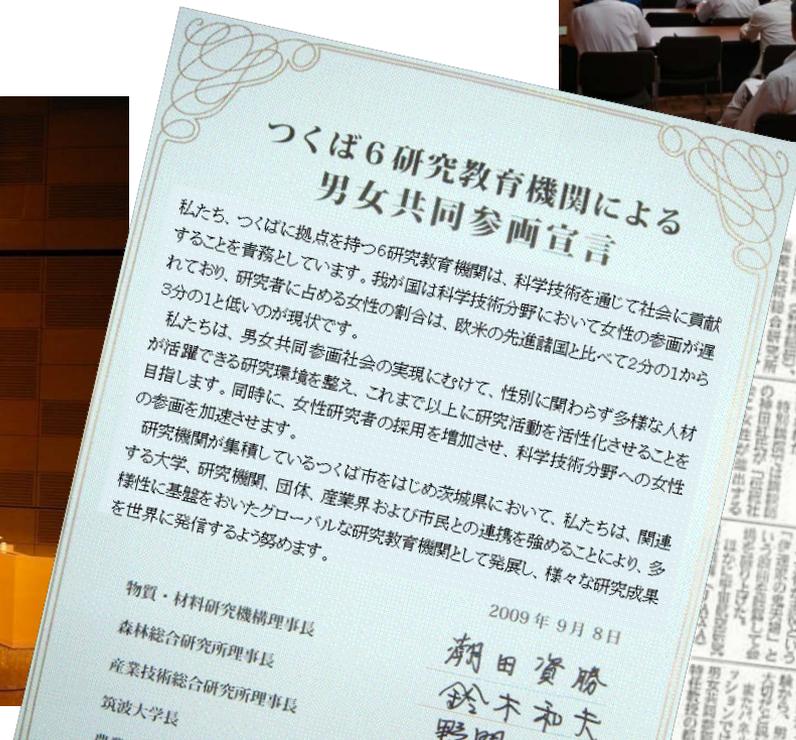


④次世代研究者育成支援

男女共同参画意識の啓発活動

全職員を対象とした意識調査
職員研修（新規採用者、中堅研究職）
所内セミナー、シンポジウムの開催、
各種シンポジウムへの参加

ネットワークの進展



意識の啓発

所内の意識啓発のみならず、つくば地域の教育研究機関や行政機関との強力なネットワークが形成されました



H22年度

エンカレッジモデルの成果

推進体制の整備

男女共同参画宣言を策定しました（H23年1月21日）

育児・介護のサポートシステム整備（研究支援）

所内で公募する交付金プロジェクトに、女性復帰支援課題（育児休業取得後復帰者対象）、若手育成課題（四十歳未満対象）が新設しました

次世代研究者育成支援

任期付研究職員が育児休業を取得した場合に、任期の延長を可能にしました（H22年10月1日施行 [職員就業規則第6条の2](#)）

任期付研究職員を対象としたキャリアカウンセリングを実施しました（H22年10月）

両立支援ガイドブックを改訂します（H23年2月配布）





女性研究者 魅力あふれる研究所

男女ともに耀く研究所を目指し、男女共同参画を推進していきます。